

予報期間 10月17日から10月23日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 19日は、低気圧がオホーツク海へ進み、前線が日本付近を通過する。
- 20日は、低気圧がカムチャツカの東へ進み、大陸の高気圧が日本海へ張り出す。
- 21日から23日は、大陸の高気圧が北日本付近へ張り出し、前線が日本の東から日本の南へのびる。

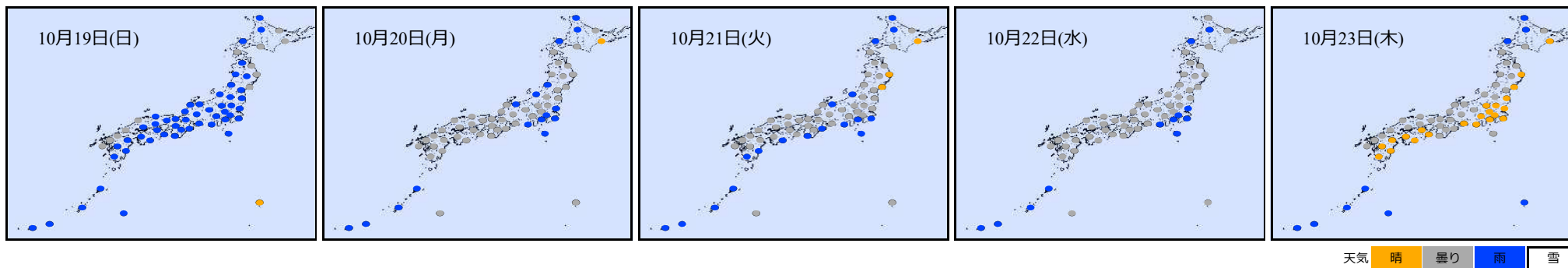
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 19日にかけて、東日本日本海側は前線の影響で大雨となり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

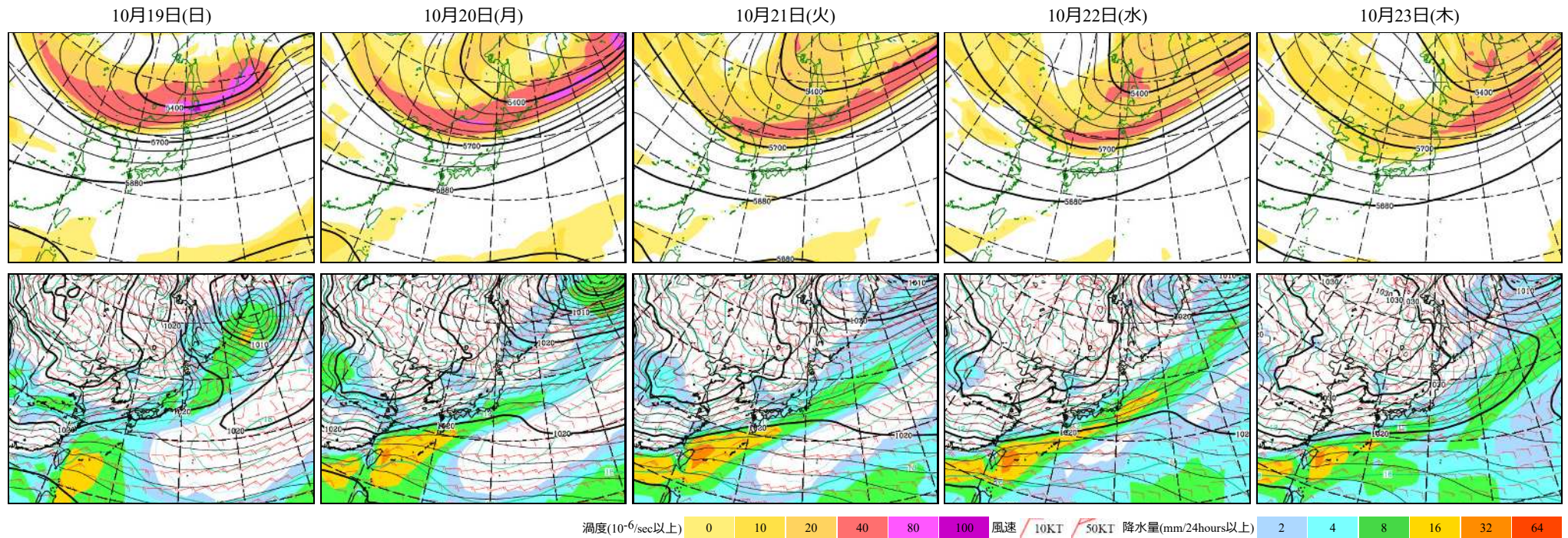
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

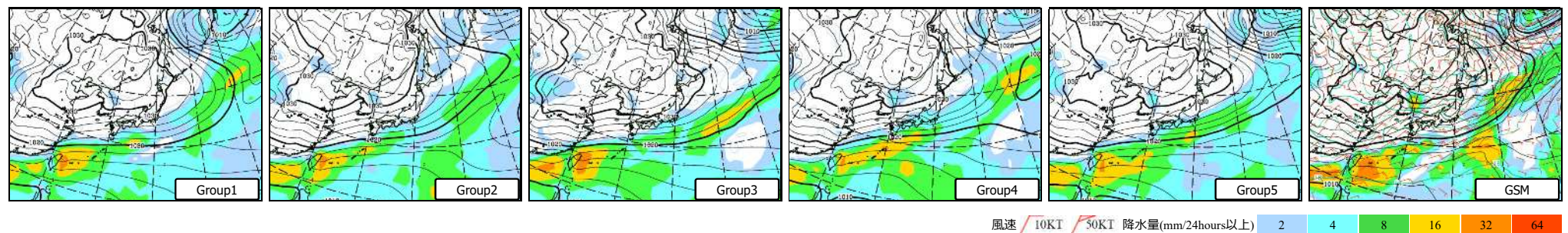


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、太平洋側では晴れる所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、23日は晴れる所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月23日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、19日にカムチャツカ半島付近の低気圧の東進が早まった。20日から22日にかけて大陸の高気圧の北日本付近への張り出しが強くなり、西日本付近への張り出しが弱くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、20日と22日に関東甲信地方で大きくなった。
- スプレッドの値は、期間を通して小さい。
- 20日以降は、前線が東日本・西日本の南岸に停滞する予測は各モデルで揃っているが、前線の南北の位置はモデル間に若干の差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。